

## 病害虫等の同定に係る技術情報

### －カイガラムシ類 (4) マルカイガラムシ科の識別②－

前回に引き続きマルカイガラムシ科について残り4種を紹介する。

#### ■マルカイガラムシ科、種の解説

4. *Lepidosaphes laterochitinos* モクタチバナカキカイガラムシ (属の特徴) 体形は細長い。中央扁長板間 (図7b) に1対の腺刺を有する (図7a)。第2扁長板は2片に分かれる (図7c)。第3扁長板は小さいか欠く。

(種の特徴) 頭部に顆粒が分布する (図7e)。臀板中央の背面分泌管は小さい (図7d)。

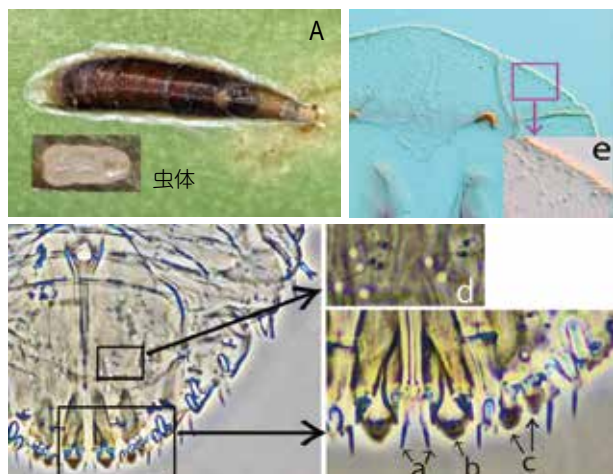


図7 モクタチバナカキカイガラムシ (A: 雌成虫、a: 腺刺、b: 中央扁長板、c: 第2扁長板、d: 背面の分泌管、e: 頭部の顆粒)

#### 5. *Parlatoria proteus* ナガクロホシカイガラムシ

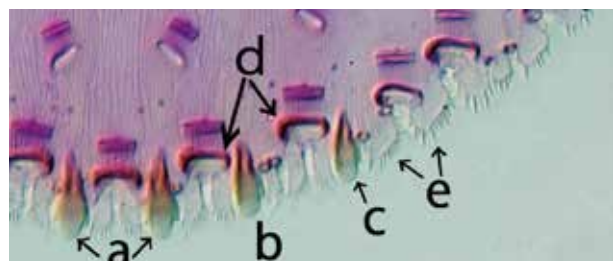
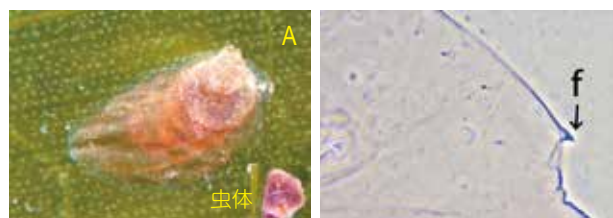


図8 ナガクロホシカイガラムシ (A: 雌成虫、a: 中央扁長板、b: 第2扁長板、c: 第3扁長板、d: 分泌管の開口部、e: 腺刺、f: 眼状突起)

(属の特徴) 3対の扁長板はほぼ似た形状 (図8a,b,c)。背面の大型分泌管は太く短い。周縁部の分泌管は開口部が三日月形に硬化した枠に囲まれる (図8d)。臀板周縁にある腺刺は扁長板と同じ長さで先端が分岐する (図8e)。(種の特徴) 頭胸部側方にとげ状の突起 (眼状突起) を1対有する (図8f)。中央扁長板間は

扁長板の幅以上に離れる (図8a)。

#### 6. *Pinnaspis strachani* コンマカイガラムシ

(属の特徴) 体形は細長い。中央扁長板は基部で癒合し左右が密着する (図9a)。第2、第3扁長板がある場合は2片に分かれる (図9b)。(種の特徴) 介殻は白色。臀板の前方に小型分泌管の集団を有する (図9c)。

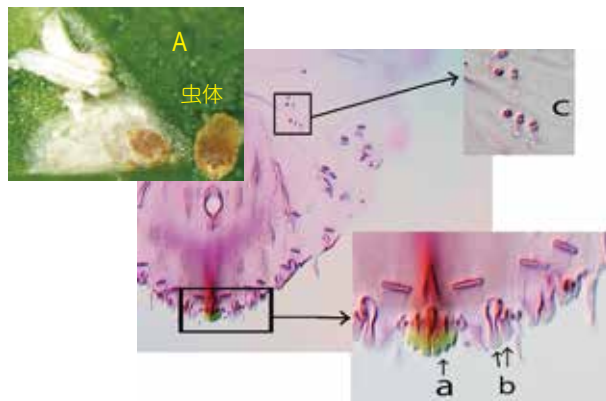


図9 コンマカイガラムシ (A: 雌成虫 (左上は雄介殻)、a: 中央扁長板、b: 第2扁長板、c: 分泌管の集団)

#### 7. *Pseudaulacaspis cockerelli* アオキシロカイガラムシ

(属の特徴) 第2扁長板は2片に分かれる (図10c)。第3扁長板は欠く場合がある。中央扁長板は基部で癒合し先端に向かって開く (図10b)。中央扁長板間に1対の刺毛を有する (図10a)。

(種の特徴) 臀板の腺刺は先端が分岐しない。臀板背面の中央に近い部分にある大型分泌管の列は4列 (図10d)。肛門の側方にも1~3個の大型分泌管を有する (図10e)。

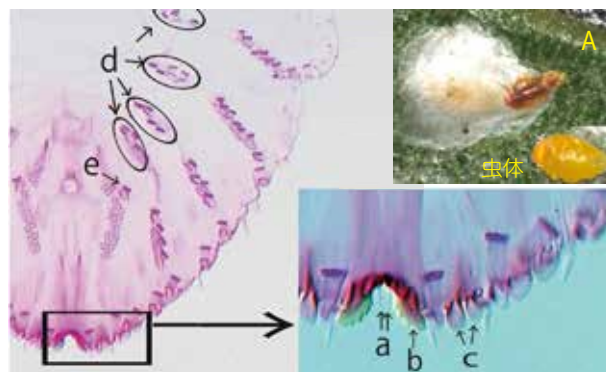


図10 アオキシロカイガラムシの臀板 (A: 雌成虫、a: 刺毛、b: 中央扁長板、c: 第2扁長板、d: 大型分泌管の列、e: 肛門側方の大型分泌管)

#### 参考文献:

- García, M. M. *et al.*, (2016) ScaleNet: A literature-based model of scale insect biology and systematics. Database. doi:10.1093/database/bav118. (online) (<http://scalenet.info>) (accessed 24 May 2021)
- 河合省三 (1980) 日本原色カイガラムシ図鑑. 全国農村教育協会 東京: 455pp.
- 日本昆虫学会 (2016) 日本昆虫目録・第4巻: 準新翅類. 権歌書房 福岡: 522pp.